

『アガルートの司法試験・予備試験 総合講義1問1答 刑法』訂正表

弊社発行の『アガルートの司法試験・予備試験 総合講義1問1答 刑法』に、以下の誤りがございました。つきましては、訂正の上ご利用いただきますようお願い申し上げます。
ご迷惑をおかけしたことを謹んでお詫び申し上げます。

頁	訂正箇所	訂正前	訂正後
i	はしがき4段落目の2行目	判例学習の重要性が増している 公法系	判例学習の重要性が増している 刑事系
7	14.の解説3行目以降	14. 付け加え禁止説＝条件関係肯定。 合法則的条件関係説＝条件関係肯定。 論理的関係説（付け加え肯定説）＝条件関係の判断自体が「行為者が法の期待通りふるまっていれば」というある種の仮定を前提としており、付け加え禁止とは単に考慮される仮定的な事情を限定するものにすぎない。そこで、仮定的消去公式という条件関係判断の公式を維持しつつ、当該行為が行われなかったとしても同一の結果が生じるとみられるときは、条件関係は認められないと解することによって、条件関係を肯定する（この見解によれば、仮定的消去公式は結果回避可能性に帰一することとなる）。	14. 付け加え禁止説＝条件関係肯定。 合法則的条件関係説＝条件関係肯定。 論理的関係説（付け加え肯定説）＝条件関係肯定 ∴論理的関係説は、仮定的消去公式という条件関係判断の公式を維持しつつ、当該行為が行われなかったとしても同一の結果が生じるとみられるときは、条件関係は認められないと解する立場であるが、例外的に一定の手続きを実際に履践したことにより正当化される行為（ex.死刑執行）は考慮されない仮定的な事情と解されているため。